

「5 突然風水害が起こったら」

- 学習のねらい：1. 突然の風水害によって引き起こされる災害の危険について理解する。
2. 危険があった時に、安全に避難する方法を理解できるようにする。
3. 気象情報を把握する等普段から心掛けることの大切さを理解する。

(指導上のポイント)

◆各自が登下校時や外出時のよく行く場所で、竜巻が発生したら、どこに避難し、どのように身を守るかを発表させる。

◆竜巻から身を守る方法について指導する。

(家の中にいる場合)

・窓から離れて、丈夫な机の下に隠れ、両手で頭を守る。 など

(屋外にいる場合)

・丈夫な建物の中に避難する。 など

◆レーダー・ナウキャスト（気象庁）で竜巻の発生確率が予測されているので参考として確認することを指導する。

<http://www.jma.go.jp/jp/radnowc/>

◆竜巻は局地的で予報には限界があり早めに避難することが大切であることを指導する。

(指導上のポイント)

◆各自が登下校時や外出時のよく行く場所で、雷が鳴り出したら、どこに避難し、どのように身を守るかを発表させる。

◆雷から身を守る方法について指導する。

・雷鳴が聞こえたらすぐ避難する。

・建物の中や車へ避難する。

・木や電柱から4m以上離れる。

◆レーダー・ナウキャスト（気象庁）で雷の発生確率が予測されているので参考として確認することを指導する。

<http://www.jma.go.jp/jp/radnowc/>

5 突然 風水害が起こったら

(1) 竜巻から身を守るには

あなたが下記の状況時に、竜巻が近づいてきた場合、どのような行動を取るべきでしょうか。

状況	取るべき行動
グラウンドでサッカーをしていると竜巻が近づいてくるのが見えた。	すぐにサッカーをやめ、学校に入る。
家にいるとき、窓から竜巻が近づいてくるのが見えた。	カーテンをしめ、窓から離れ布団をかぶる。



ほかに、どんな状況が考えられますか。また、そのときの取るべき行動を書いてください。

状況	取るべき行動
自転車で下校中。	近くのコンビニに避難。

(2) 雷から身を守るには

あなたが下記の状況時に、突然雷が発生した場合、どのような行動を取るべきでしょうか。

状況	取るべき行動
野球をしているグラウンドから遠く離れた場所で稲光が見えた。	すぐに野球をやめ、体育館に避難する。
大きな木の下で弁当を食べていたら雷が鳴った。	木から離れて、近くの建物に入る。



ほかに、どんな状況が考えられますか。また、そのときの取るべき行動を書いてください。

状況	取るべき行動
川で家族とキャンプをしていた。	車の中に逃げ込み、高い所へ行く。

【竜巻エピソード】

伊勢市で平成25年9月4日14時20分頃、竜巻が発生した。

竜巻は、同市粟野町で発生後、隣接する上地町などの住宅街などを約3kmにわたって直進した結果、家の瓦が飛んだり、窓ガラスが割れたりするなどの被害があった。城田小学校（上地町）では、校舎1階の玄関で急に「ゴー」という音がして、目の前が白くなり、激しい風が雨水を巻き上げて、校庭を移動するのを確認した。

竜巻は15秒程度で過ぎたが、飛散物によって敷地内の木の枝が折れて校庭に散乱し、校庭にあった十数台の車の窓ガラスが割れた。幸いにも、児童は雷雨のため下校を見合わせていて全員無事だった。なお、当日は、気象台は竜巻注意情報を発表していた。

(3) 急な大雨から身を守るには

いつでもどこでも急な大雨におそわれる場合があります。あなたが下記の状況に遭遇した場合、どのような行動を取るべきでしょうか。

状況	取るべき行動
通学路にある用水路が増水してきた。	用水路に落ちないように長い杖を持って歩く。
川沿いの公園で遊んでいると川の水位が上がってきた。	公園からすぐに離れ、高い所へ避難する。



ほかに、どんな状況が考えられますか。また、その時の取るべき行動を書いてください。

状況	取るべき行動
川の中州でパーベキューをしていた。	川の中州から離れて高い所へ避難する。

■ 紀伊半島大水害(平成23年台風第12号)

台風第12号は、平成23年9月1日から5日朝にかけて、三重県南部や奈良県、和歌山県を中心に、長期間にわたって激しい雨をもたらし、各地で浸水被害や土砂災害が発生しました。

この結果、県内では、防災関係機関の懸命の救助活動にもかかわらず、2名の方が犠牲となり、1名の方が行方不明となっているほか、住家被害が2,763棟におよぶ大災害となりました。

浸水した学校では、学校の早期再開に向けて、生徒が泥掻きや清掃活動を行いました。



紀伊半島大水害(熊野市市内)



(指導上のポイント)

◆各自が登下校時や外出時のよく行く場所で、急な大雨が降り出したら、どこに避難し、どのように身を守るかを発表させる。

◆急な大雨から身を守る方法について指導する。

・雨が降り始めたり、空や川に異変を感じたりしたらすぐに離れる。

・浸水した場所に注意する。など

◆レーダー・ナウキャスト(気象庁)で雨の発生確率が予測されているので参考として確認することを指導する。

<http://www.jma.go.jp/jp/radnowc/>

【突然の大雨エピソード】

平成20年7月28日、近畿地方では、日本海南部にある前線に向かって暖かく湿った空気が流れ込みやすい状態となり、大気の状態が不安定となっていた。兵庫県南部では、雷を伴った大雨となり、14時から15時の解析雨量(レーダーと雨量計による解析)は、神戸市付近で約60mmの非常に激しい雨となった。

この大雨の影響で、神戸市灘区都賀川では、急激な増水のため(14時40分から10分ほどで約1.3mの水位上昇)、河川内の親水公園で遊んでいた人たちが流され、5名が亡くなった。

当日、気象台は、13時20分に大雨・洪水注意報、13時55分に大雨・洪水警報を発表していた。

★紀伊半島大水害を体験した教員の声

台風による風水害のあと、困るのが水の確保です。「こんなにたくさんの雨が降ったのに、なぜ?」と思うくらい、土砂災害等の影響で断水となります。断水になると、飲み水だけでなく、トイレも使用できなくなりました。他のものは何かで代用できたり、作ったりできますが、「水」だけは、何かを加工して作ることができませんでした。風水害では災害前も災害後も「水」に悩まされることを知り、災害へ必要な備えをしておきましょう。他にも台風が来る前の窓や雨戸、物の固定や非常用品の確認、安全対策、避難場所の確認などをおきましょう。

★紀伊半島大水害時の生徒の声

「私たちは、たった3日間の断水でもこんなに大変だったのだから、東日本大震災の時は、どんなに大変だったかと実感した。」

(確認)

危険を知り、適切な回避行動を考えておく必要があることを理解できたか。